

袈裟掛石

伝説によると、高野山の開祖である空海（諡号 弘法大師、774-835）は、山を登る際にここで休息しました。空海が袈裟（仏僧が着る衣服）を脱いでそれを岩のひとつのV字型のでっぱりに掛けたことから、この岩はこのように風変わりな名前になりました。二つの大岩の間にある狭い隙間を通れる人は長寿に恵まれるとされています。

55 町石の近くにある袈裟掛石は、高野山の聖域と俗世の境界を示しています。